

リーダーの仕事

わたしはスーパーマーケットで、惣菜を作る仕事をしています。料理を作ることが大好きなわたしにとっては、とても楽しく、やりがいのある仕事です。

ある日、店長から惣菜チームのリーダーを任せたいという話がありました。わたしはとてもうれしく思いました。しかし、すぐに「はい」と返事をする事ができませんでした。わたしがリーダーになるなんて考えてもいませんでしたし、自分に務まるのだろうかと不安になったからです。返事を保留し、少し考える時間をいただくことにしました。

家に帰り、中学生の子どもにこの話をしました。すると子どもは、

「リーダーってかっこいいよね！」と言いました。

「かっこいいとかそういうことじゃないの。リーダーって大変なのよ。今までとは違った仕事もしなくちゃならないし……責任重大なんだから。」

「じゃあ、断れば。」

「そんな簡単に言わないでよ。わたしだってどうしたらいいか、迷ってるんだから……」

「僕は、やればいいと思うけどなー。」

子どもが背中を押してくれたのはうれしかったのですが、なかなかふんぎりがつかないのです。

数日後、店長に呼ばれました。

「この間の件、考えてくれた？」

「はい、考えてはいるんですが……リーダーなんてわたしに務まるのかどうか不安で……今のリーダーは男性ですし……」

「なぜ、あなたにリーダーを任せたいと思ったかわかるかい？ 覚えているかなー。いつだったか、車椅子のお客様が来店された時に、品物が取りづらくて、苦労されたことがあったよね。その後、あなたが中心となって陳列を工夫してくれて、誰もが品物を手に取りやすくしてくれたよね。そういうところが、リーダーにふさわしいと思ったんだ。男性だからとか女性だからとかではなく、僕はあなたに任せたいんだ。」

家に帰り、晩ごはんを食べながら、再び子どもに店長の話をしました。すると子どもは、

「じゃあやってみなよ。お母さん自身の仕事ぶりが認められたんだろ？ それなら、絶対やるべきだよ！」

「でも、家のこともあるし……」

「家のことなら、僕だってちょっとは引き受けるからさ。女の人もバリバリ働く時代なんだし、こうなったら店長でも目指してみれば？」

「もう、調子いいんだから！」

胸のつかえがとれ、久しぶりに笑顔あふれる、すがすがしい秋の食卓でした。